保険薬局薬剤師に求められる
てんかん患者さんへの対応のポイント

Proprietary and Confidential Property of UCB

JP-DA-2300003

Inspired by patients.
Driven by science.

ユーシービージャパン株式会社

はじめに

近年、保険薬局薬剤師の業務は、「対物業務から対人業務へ」シフトしつつあります。

患者と適切なコミュニケーションをとり、適切な服薬指導を行うことは、最も重要な対人業務の1つです。

てんかんは、患者のプライバシーへの配慮が必要で対人業務が難しい疾患であると同時に、薬物療法が非常に重要で、かつ日常生活に即した患者指導が求められる疾患でもあります。

ここで紹介する**てんかん患者さんへのコミュニケーションのポイント**を参考にして、地域性や施設方針などに合わせてご活用いただければと思います。

本資材が、患者さんに対する適切なフォローアップにつながれば幸いです。

監修：国立病院機構　静岡てんかん・神経医療センター　治験管理室　山本吉章

Proprietary and Confidential Property of UCB

保険薬局薬剤師に求められるてんかん患者さんへの対応のポイント

- 保険薬局薬剤師を取り巻く環境の変化と対人業務のスキル向上の重要性
  - 保険薬局薬剤師を取り巻く環境の変化
  - 対人業務のスキル向上の重要性
    - 薬局薬剤師業務の対物中心から対人中心への転換
    - リフィル処方箋に求められる保険薬局薬剤師の対人業務のスキル
- 押さえておきたいてんかん治療の基礎
  - てんかんの診断の流れ
  - 薬物療法の考え方
  - 興奮性神経細胞と抑制性神経細胞
  - 抗てんかん薬の主な作用機序
  - 抗てんかん薬の主な副作用
- てんかん患者さんから必要な情報を引き出すコミュニケーション
  - 患者さんに優先的に尋ねるべきこと
  - 初対面の患者さんへの服薬指導のコツ①
  - 初対面の患者さんへの服薬指導のコツ②
  - 妊娠可能な女性とのコミュニケーションのコツ
  - 小児のてんかん患者の保護者とのコミュニケーションのコツ
  - 高齢者とのコミュニケーションのコツ
  - 自分のことを話したがらない患者さんに対する世間話のはじめ方
- てんかん患者さんの処方鑑査
  - 疑義照会が必要なケース／トレーシングレポートの活用
  - てんかん患者さんがてんかん以外の疾患の処方箋を持参した場合

Proprietary and Confidential Property of UCB

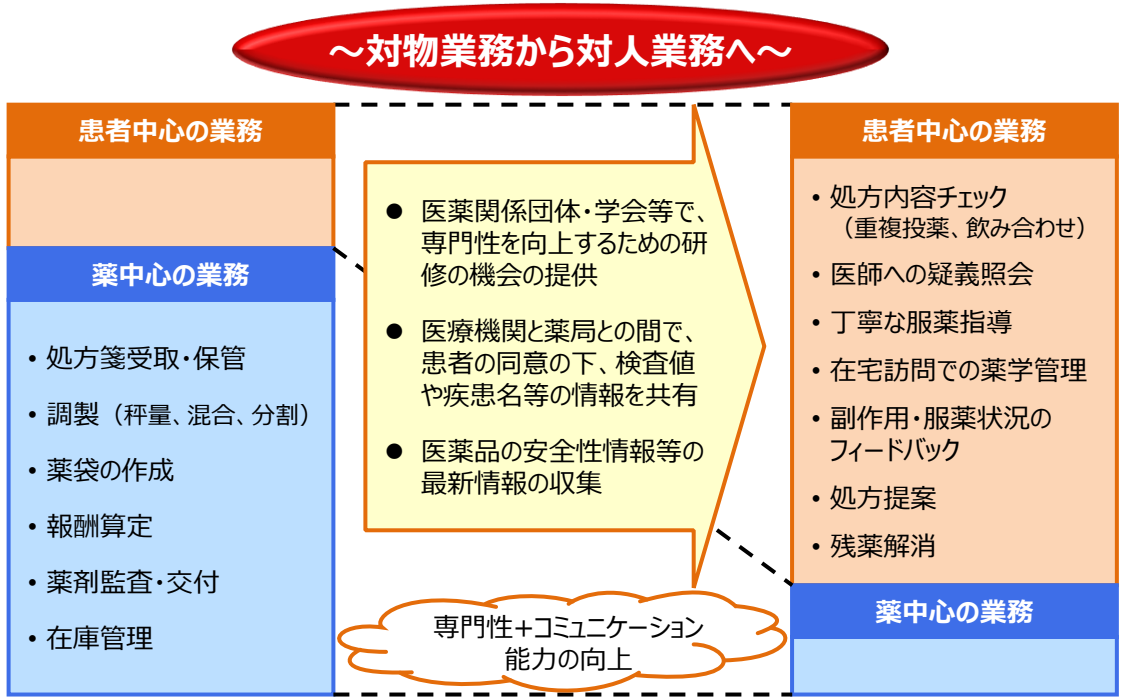
保険薬局薬剤師を取り巻く環境の変化と対人業務のスキル向上の重要性

Proprietary and Confidential Property of UCB

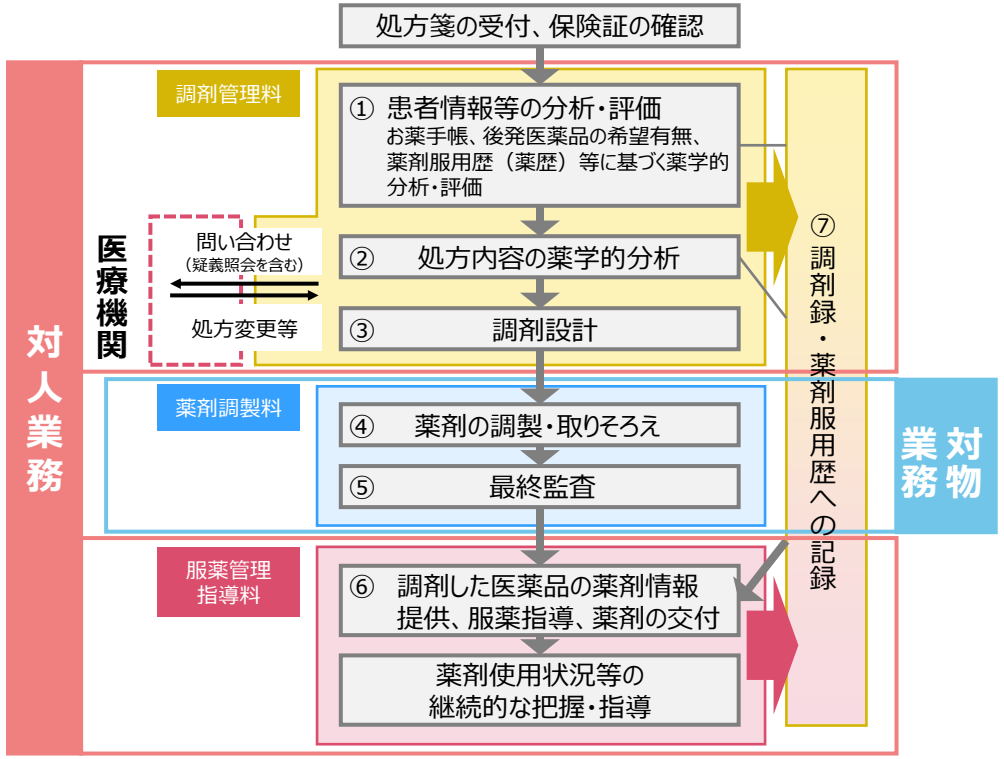
保険薬局薬剤師を取り巻く環境の変化

「患者のための薬局ビジョン」

〇かかりつけ薬剤師としての役割の発揮に向けて



薬局での調剤業務の流れについて（令和４年改定）



2015年に厚生労働省が公表した「患者のための薬局ビジョン」に明記されたことを契機に、保険薬局薬剤師の役割が「**対物業務から対人業務へ**」シフトしつつあります。この流れは政府による医師の働き方改革推進事業によって、医師から薬剤師へのタスクシフトが促されたことによっても加速されました。さらに、2022年の調剤報酬改定では、薬剤調製料を**対物業務**、調剤管理料、服薬管理指導料を**対人業務**として評価体系が見直され、対人業務への転換が促されています。

厚生労働省保険局 医療課. 令和４年度調剤報酬改定の概要（調剤）. 2022.
https://www.mhlw.go.jp/content/12400000/000911825.pdf

Inspired by patients.
Driven by science.

Proprietary and Confidential Property of UCB

対人業務のスキル向上の重要性

薬局薬剤師業務の対物中心から対人中心への転換（「患者のための薬局ビジョン」2015年）

- 医薬分業の原点に立ち返り、保険薬局を患者本位のかかりつけ薬局に再編するため、団塊の世代が後期高齢者になる 2025年、更に10年後の2035年に向けて、中長期的視野に立って、現在の薬局をかかりつけ薬局に再編するというビジョンが掲げられました。
- その基本的な考え方の1つとして、『**薬局薬剤師業務の対物中心から対人中心への転換の推進**』が挙げられています。

患者に選択してもらえる薬剤師・薬局となるため、専門性やコミュニケーション能力の向上を通じ、
薬剤の調製などの対物中心の業務から、患者・住民との関わりの度合いの高い対人業務へ
とシフトを図る。

厚生労働省 患者のための薬局ビジョン. 2015. より作成
https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11121000-Iyakushokuhinkyoku-Soumuka/vision_1.pdf

Inspired by patients.
Driven by science.

Proprietary and Confidential Property of UCB

対人業務のスキル向上の重要性

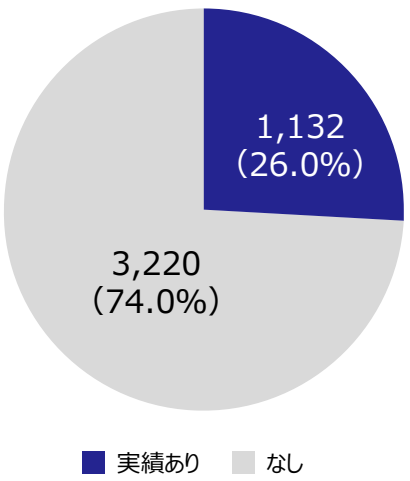
リフィル処方箋に求められる保険薬局薬剤師の対人業務のスキル

- 2022年の調剤報酬改定にてスタートした**リフィル処方箋**においても、保険薬局薬剤師の対人業務の高いスキルが求められています。

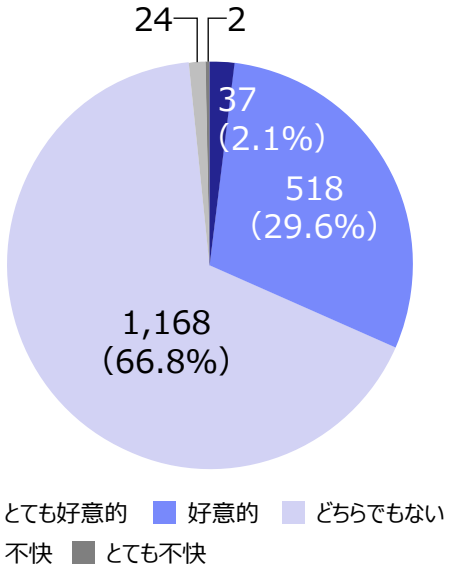
リフィル処方箋に関する保険薬局薬剤師の患者への対人業務

- 患者の**服薬状況等の確認**を行い、リフィル処方箋により調剤することが不適切と判断した場合には、調剤を行わず、受診勧奨を行うとともに、処方医に速やかに情報提供を行う。
- 調剤した内容、患者の服薬状況等について必要に応じ処方医へ情報提供を行う。
- 継続的な薬学的管理指導のため、**同一の保険薬局で調剤を受けるべきである旨を患者に説明**する。
- 患者の**次回の調剤を受ける予定を確認**する。
- 予定される時期に患者が来局しない場合は、**電話等により調剤の状況を確認**する。
- 患者が他の保険薬局において調剤を受けることを申し出ている場合は、その保険薬局に調剤の状況とともに必要な情報をあらかじめ提供する。

「2022年10月単月」にリフィル処方箋応需実績があった薬局（N＝4,352薬局）



薬局薬剤師によるフォローアップや、処方医へのフィードバックに関する「患者の受け止め」（N=1,749薬局）



厚生労働省保険局 医療課. 令和４年度調剤報酬改定の概要（調剤）. 2022. より作成
https://www.mhlw.go.jp/content/12400000/000911825.pdf

一般社団法人 日本保険薬局協会 医療制度検討委員会. リフィル処方箋応需の実態調査報告書. 2022.
https://secure.nippon-pa.org/pdf/enq_2022_15.pdf

Proprietary and Confidential Property of UCB

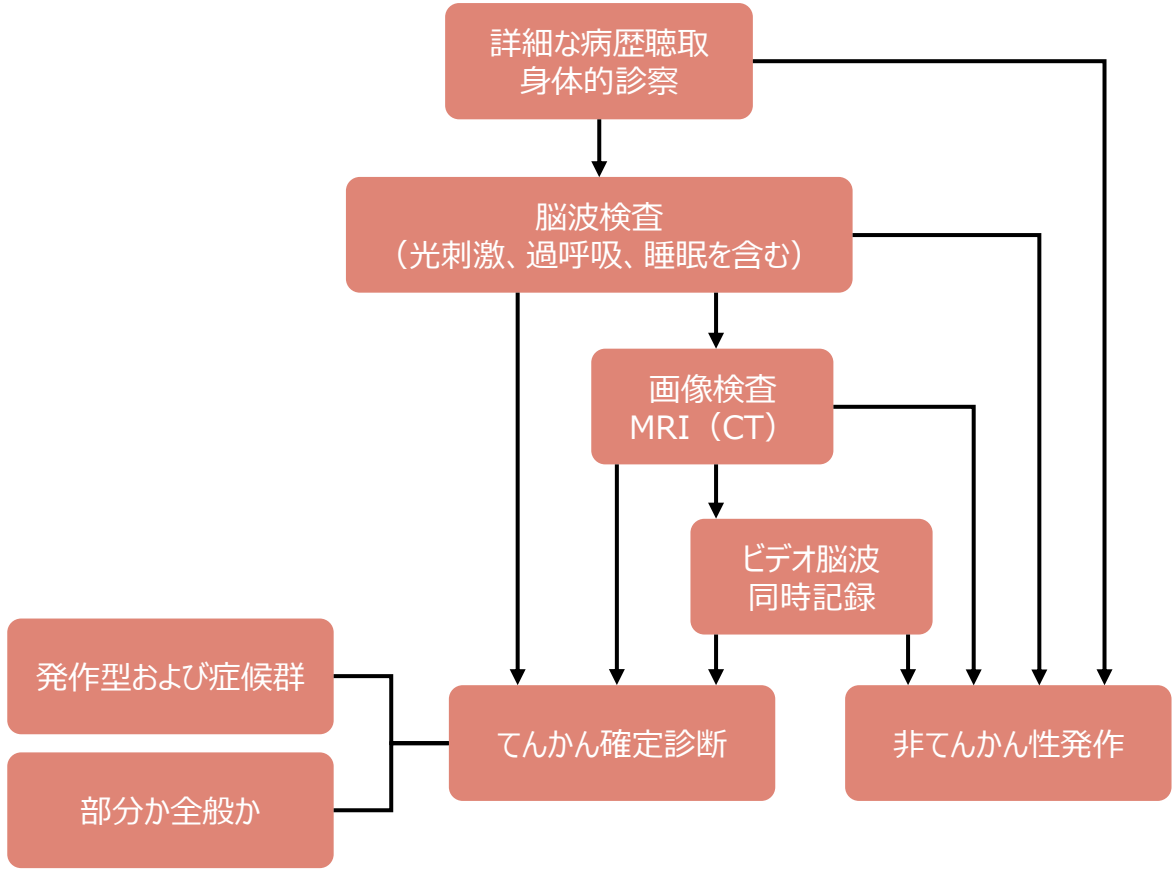
押さえておきたいてんかん治療の基礎

Proprietary and Confidential Property of UCB

押さえておきたいてんかん治療の基礎

てんかんの診断の流れ

- まず発作の様子や成育歴、既往歴、家族歴などを聴取したり、小児の場合は心身の発達に問題はないか、手足などに麻痺はないかなどを診察します。
- 続いて、脳波検査により大脳の活動状態を調べます。
- てんかんがあれば発作時以外でも特徴的な脳波がみられるため、脳波検査は最も重要な検査に位置付けられています。
- 必要に応じてMRIなどの画像検査、ビデオ脳波同時記録（長時間ビデオ脳波モニタリング検査）が行われます。
- MRIの頻度は、難治の患者さんで1年に1回程度です。
- 小児では、はじめは発作部位がわからなくても、成長とともにわかるようになり手術ができるようになるケースもあります。



日本神経学会「てんかん診療ガイドライン」作成委員会 編：「てんかん診療ガイドライン 2018」P.15, 医学書院, 2018

Proprietary and Confidential Property of UCB

押さえておきたいてんかん治療の基礎

薬物療法の考え方

単剤療法

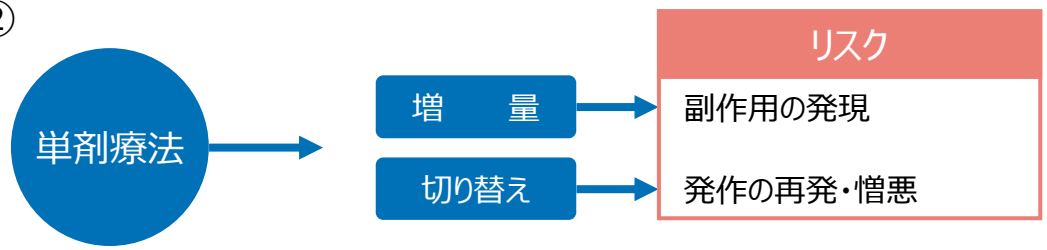
- 未治療の場合、単剤療法を開始します。
- 診断が正しければ、約2/3の患者さんは単剤で寛解するといわれています。
- 服用量は少量で開始し、発作抑制まで徐々に増量していく薬剤が多いですが、副作用の発現にも注意が必要です。
- 副作用が許容できない、あるいは十分量の服薬でも発作を抑制できない場合は、切り替えを行います。

併用療法

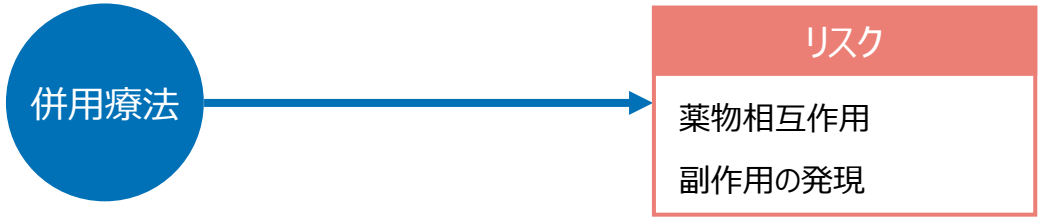
- 単剤療法で発作が消失しない場合は、併用療法を行います。
- 併用療法で発作が抑制できない場合は、てんかんの診断の見直し、発作型の確認をして再検討します。
- 診断や治療のプロセスに問題があれば、是正した薬物療法を行いますが、そうでない場合は、外科治療の適応を検討します。

① 発作型の決定と適切な薬剤の選択

②



③ 併用療法（単剤療法で発作が止まらないとき）



診断の見直し/発作型の確認

外科治療の適応を検討

井上有史、池田仁 編:「新てんかんテキスト－てんかんと向き合うための本 改訂第2版」P.67, 南江堂, 2021より作成

Proprietary and Confidential Property of UCB

押さえておきたいてんかん治療の基礎

興奮性神経細胞と抑制性神経細胞

- 神経細胞は大きく興奮性神経細胞と抑制性神経細胞にわかれます。
- 興奮性神経細胞は興奮性シナプスを形成するシナプス前細胞で、主にグルタミン酸やアセチルコリンなどのシナプス伝達物質によってシナプス後細胞を脱分極させます。
- 抑制性神経細胞は抑制性シナプスを形成するシナプス前細胞で、GABAやグリシンなどによりシナプス後細胞を脱分極させます。

抗てんかん薬の作用機序

- 抗てんかん薬はこれら神経細胞のイオンチャネルをターゲットにし、シナプス伝達に作用するものが多くを占め、興奮性シナプス伝達を抑制するもの、抑制性シナプス伝達を強化するものに大別されます。
- その他の作用機序として、シナプス前末端にあるシナプス小胞蛋白2Aに作用して神経伝達物質の放出を抑制する薬剤、脳内の炭酸脱水素酵素を阻害する薬剤などもあります。

抗てんかん薬による薬物治療

てんかん発作：興奮性シナプス伝達と抑制系シナプスのバランスの変動

神経細胞の過剰な興奮を抑える

→ 興奮性シナプス伝達の抑制
- Na^{+}チャネル阻害作用
- Ca^{2+}チャネル阻害作用
- グルタミン酸受容体拮抗作用

→ 抑制性シナプス伝達の促進
- GABAa受容体への直接作用
- GABA代謝を介した作用

高橋幸利 編:「エキスパートが語るてんかん診療実践ガイド」P.176-182, 日本医事新報社, 2022より作成

Proprietary and Confidential Property of UCB

押さえておきたいてんかん治療の基礎

抗てんかん薬の主な作用機序

- 抗てんかん薬の作用機序に関する報告は多数あるため、この限りではありませんが、以下は明らかとなっている作用機序に基づいて分類しています。

標的、作用機序		fenn
Na^+チャネル阻害	急速な不活性化を促進	フェニトイン、カルバマゼピン、ラモトリギン、Oxcarbazepine**、ルフィナミド Eslicarbazepine acetate*
	緩徐な不活性化を促進	ラコサミド
Ca^{2+}チャネル阻害	P/Q型Ca^{2+}チャネル	ガバペンチン、プレガバリン
	T型Ca^{2+}チャネル	エトスクシミド
GABA関連	GABA受容体活性	フェノバルビタール、ベンゾジアゼピン類
	GABA輸送体阻害	Tiagabine*
	GABAトランスアミナーゼ阻害	ビガバトリン
シナプス小胞タンパク2A結合		レベチラセタム
AMPA受容体阻害		ペランパネル
K^+チャネル開口作用		Retigabine/Ezogabine*
複数の作用機序		バルプロ酸、トピラマート、ゾニサミド、フェンフルラミン、Felbamate*

＊国内未承認　**国内未発売

Brodie MJ. et al: Epilepsy Behav. 21(4), 331-341, 2011 より改変

Inspired by patients.
Driven by science.

Proprietary and Confidential Property of UCB

押さえておきたいてんかん治療の基礎

抗てんかん薬の主な副作用

- 抗てんかん薬の副作用は、①アレルギー機序が関与する薬剤に対する特異体質による急性初期反応（特異体質による副作用）、②用量依存性の神経系への抑制作用、③長期服用時にみられる慢性期副作用、に大別されます。

① 特異体質による副作用	
皮疹	特異体質性副作用の代表的なものである。一般的に、投与開始後5日から8週間に多く出現する。重篤な副作用としてStevens-Johnson症候群（SJS）、中毒性表皮融解壊死症（TEN）、薬剤性過敏症症候群（DIHS）がある。
血液系・その他	汎血球減少、骨髄抑制、肝障害も特異体質による副作用としてみられることがあり、特に骨髄抑制は重大な副作用の1つである。

② 用量依存性副作用	
中枢神経系症状	めまい、眼振、複視、眠気、食欲減少、運動失調、精神症状などがあり、これらの多くは、投与初期にみられることが多い。重度の眠気・鎮静は精神・身体活動の低下による日常生活動作の低下だけでなく、逆にてんかん発作を誘発することもある。また、注意力低下、言語機能低下などの認知機能低下を呈する場合もある。
消化器症状	悪心・嘔吐、下痢、便秘などの消化器症状を生じることがある。その他肝機能障害が重篤な場合もある。
その他	QT延長など心伝導系障害、発汗減少は用量依存副作用と考えられている。

③ 長期服用に伴う副作用
体重変化、多毛、脱毛、尿路結石、小脳萎縮、歯肉増殖などに注意が必要な薬剤がある。酵素誘導作用のある薬剤は、コレステロール値上昇、骨粗しょう症にも注意を要する。

Proprietary and Confidential Property of UCB

日本てんかん学会 編：「てんかん専門医ガイドブック 改訂第２版」診断と治療社, 2018

てんかん患者さんから必要な情報を引き出すコミュニケーション

Proprietary and Confidential Property of UCB

患者さんに優先的に尋ねるべきこと

副作用は現れていないか

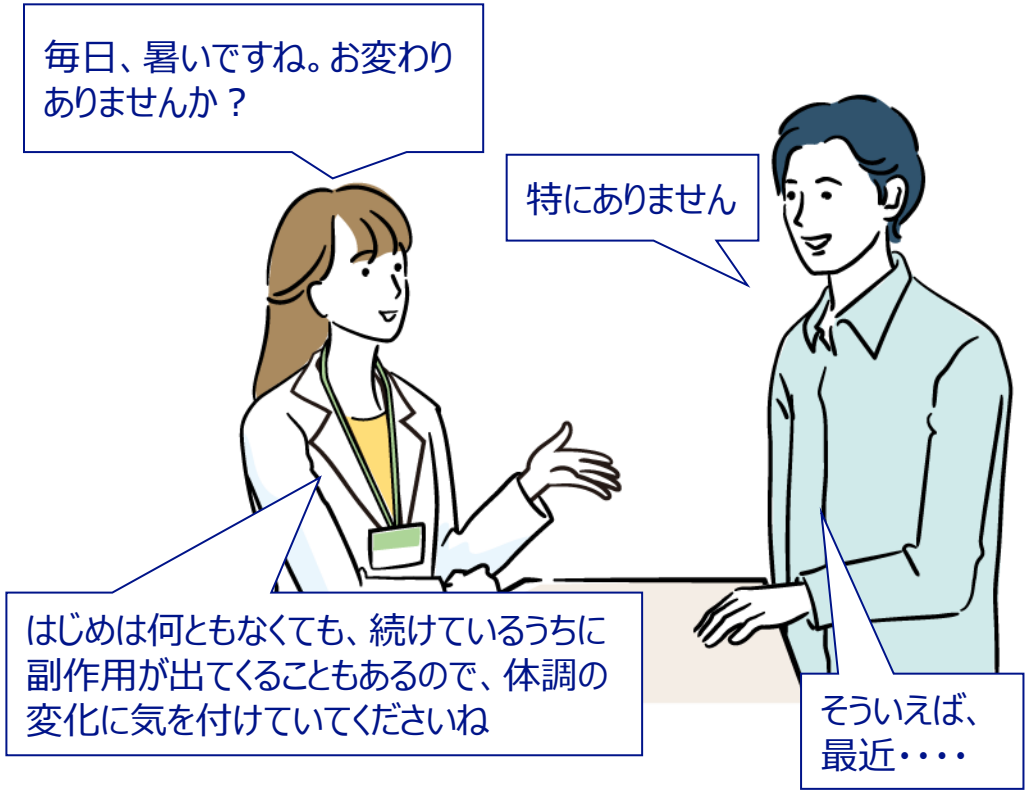
- 抗てんかん薬で多く認められる副作用として、投与開始時には眠気、鎮静、めまいなど、長期の服用で体重の増減、歯肉増殖、脱毛、多毛、骨粗鬆症、尿路結石、小脳萎縮などが知られています。
- ただし、患者さんを不安にさせないように、言葉を選ぶ配慮が必要です。

予備の薬はあるか

- 災害時や、急に通院できなくなった場合に備えて、1週間分程度、予備の薬を持っているかどうかを確認しましょう。

他に併用薬はないか

- OTC薬を購入したり、院内処方で出されている場合など、お薬手帳に記載のない薬剤を服用していないか、確認しましょう。



ワンポイントアドバイス

てんかん患者さんでは、**プライバシーへの配慮**の感じられる薬局を選択する傾向がみられます。口頭では「てんかん」という疾患名は使わないようにしましょう。

✕ てんかんの薬 ⇨ ○ 神経の興奮を抑える薬
発作を抑える薬

Proprietary and Confidential Property of UCB

初対面の患者さんへの服薬指導のコツ①

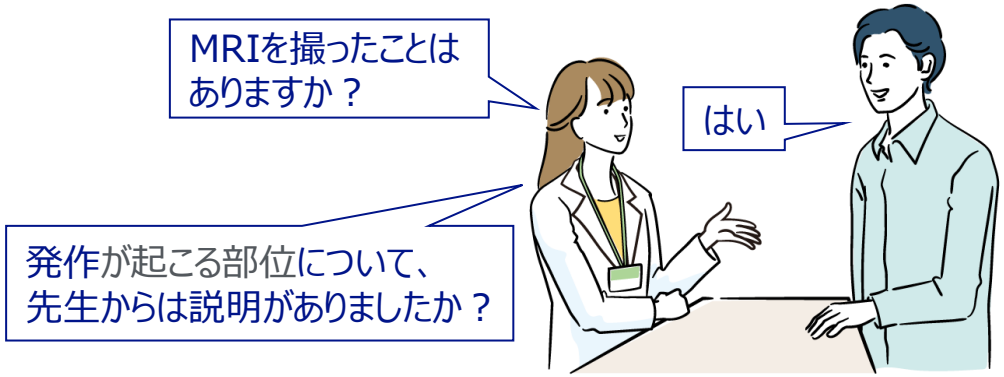
はじめて抗てんかん薬の処方箋を持参したときが、患者さんからの情報を最も聞き出しやすいタイミングです。
患者さんから情報を引き出すために思いきって問いかけてみてください。
多くを話したくない様子の患者さんでは、初日には無理に会話をせずに、話せるチャンスを待ちましょう。薬歴を利用してその旨を申し送りするとよいでしょう。

処方元の診療科から予測できる疾患名

てんかん　：脳神経外科、小児科、神経内科、精神科
躁病、躁状態　：心療内科、精神科
三叉神経痛　：耳鼻科、歯科口腔外科、脳神経外科、ペインクリニック、皮膚科（帯状疱疹の後遺症として）

「てんかん」という言葉を用いずに、疾患名を特定できる質問

- 「先生から薬について何か言われていますか？」と尋ねると、疾患名も推測できる場合があります。
- 脳波検査やMRIは、てんかんが疑われる場合に行われる検査なので、受けたことのある患者さんは、てんかんである可能性が高いと推察されます。



ワンポイントアドバイス
これまでMRIや脳波の検査を受けたことのある方は、てんかんの患者さんであると考えられます。アドヒアランスの良い人、発作がなかなか治まらない人、小児患者の保護者などは、検査の結果を気にしている場合が多いため、答えていただける可能性が高いと思われます。

Proprietary and Confidential Property of UCB

初対面の患者さんへの服薬指導のコツ②

保険証やお薬手帳の処方歴から得られる情報を上手に利用することで、会話の糸口が見つかる可能性があります。

保険証から得られる情報

- 親の保険の扶養になっているか、自分で保険に入っているかで、生活状況、知的障害合併の有無を推測できることがあります。
  - **親の扶養**⇒就労が不安定　or　パート勤務。
  - **自分の保険**⇒知的障害の合併がない　or あっても軽度なため就労できている。

処方歴から得られる情報

- 処方薬が追加、変更される頻度から、発作の状態が推測できます。
  - **長期間同じ薬を継続**⇒発作は治まっている、あるいは、発作があってもQOLを重視して治療継続しているものと考えられるので、発作について話すより、日常生活について話すのがよい。
  - **薬が頻繁に変更**⇒発作が安定していないと考えられる。

ワンポイントアドバイス

てんかん患者さんの中には知的障害や発達障害を合併している方がいるため、患者さん個々の知的レベル・こだわりを考慮して服薬指導する必要があります。一般就労以外にも、就労支援事業所や障害者雇用で軽作業に就いている患者さんもいます。
どの程度の仕事をしているのかを推測して話題や話し方を考えることも大切です。なお、障害者手帳や療育手帳からも患者さんの生活状況を推定することができます。

Proprietary and Confidential Property of UCB

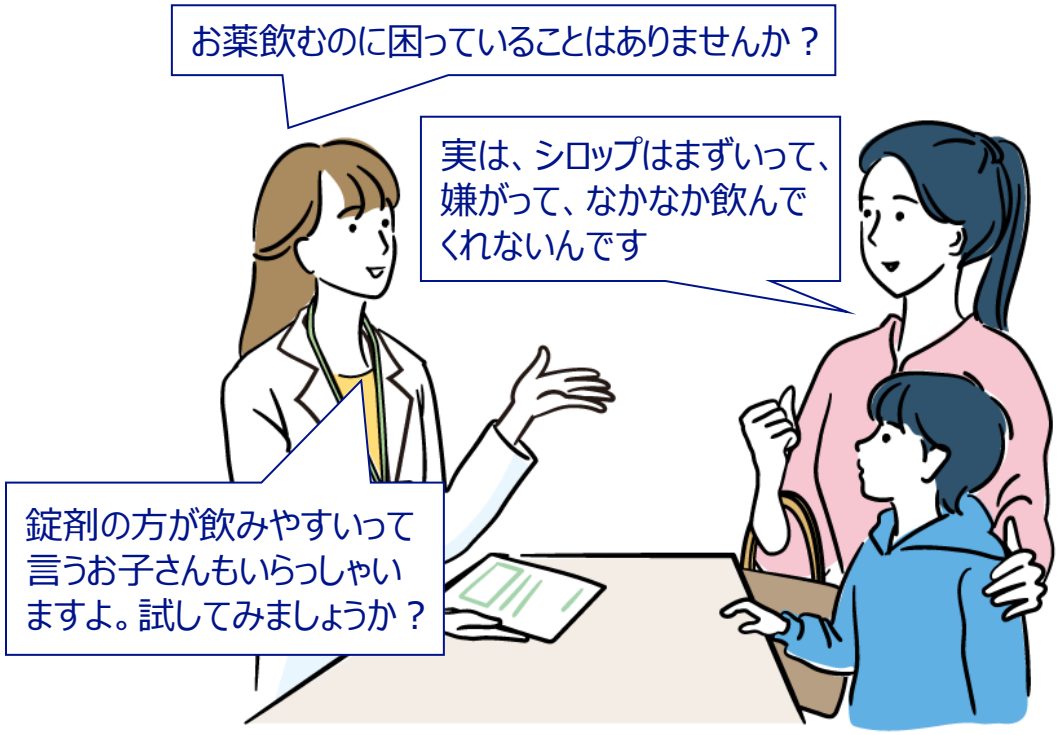
妊娠可能な女性とのコミュニケーションのコツ

- 妊娠希望または妊娠中の女性は、ほとんどの場合、主治医と相談して薬剤を選択しています。服装やバッジなどから妊娠していることが明らかな患者さんには、念のため、医師に妊娠していることを伝えているかどうかを確認しましょう。
- 患者さんから薬の安全性について質問された場合には、まず、医師にどのように説明を受けているかを確認しましょう。
- 妊婦や授乳婦の服薬リスクについては、信頼のおける書籍や資料の最新情報に基づいて回答しましょう。
- 各薬剤の使用経験が安全性評価に十分ではないため、これらの安全性情報が絶対的なエビデンスではないことを、患者さんが不安にならない表現で付け加えましょう。

Proprietary and Confidential Property of UCB

小児てんかん患者の保護者とのコミュニケーションのコツ

- 小児では、薬が飲めているかどうかを確認することが重要です。患者さんの成長にともない、服薬を嫌がることもあります。剤形が複数（散剤、液剤、錠剤）ある場合は、剤形変更を提案することも大切です。
- アドヒアランスに関するコミュニケーションを繰り返すことで信頼を得られれば、心配事や相談事などを積極的に相談されるようになる可能性があります。
- 小児のてんかん患者さんの保護者は不安が強い場合が多く、医師から言われたことを薬剤師にも再確認することもあります。保護者の不安をあおるような表現は避けて接するようにしましょう。
- 患者さんの中には「てんかん」と言われることに抵抗感を持つ方もいます。「てんかん」という言葉は避け、ほかの患者さんに聞こえないように話すといった配慮が、信頼の獲得に重要です。



ワンポイントアドバイス

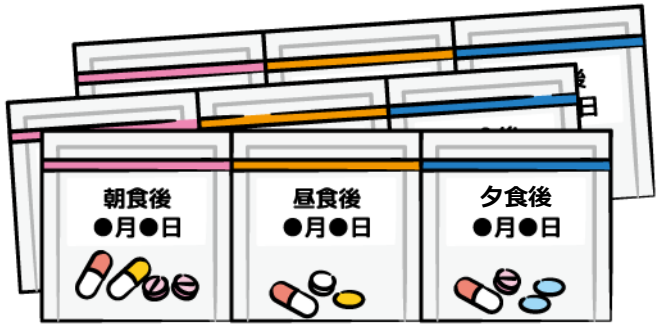
発作を記録できるように、「発作日誌シート」を紹介することで、会話の糸口がつかめるかもしれません。
すでに、主治医からもらって使用している場合には、見せてもらえる可能性もあります。

発作日誌シート https://hcp.ucbcares.jp/hcp-materials/EPI_00126

Proprietary and Confidential Property of UCB

高齢者とのコミュニケーションのコツ

- 高齢のてんかん患者さんでは認知症を併発する場合があります。認知症の初期症状では短期記憶が残らないことが多く、「はいはい」と返事をしていても、忘れてしまい、追加された薬を飲んでいなかったということが多々あります。
- 自分の行動を優先する、意味のない行動、順番が待てないなど、気が短い・落ち着きがない方では、認知症の周辺症状を疑って慎重に対応することも必要です。
- 服用方法など、理解できていないと思われる方には、1錠であっても一包化し、飲むタイミングごとに色分けしたり、日付を入れたりするとよいでしょう。残薬を回収すれば、飲み忘れやすいタイミングがわかります。
- 頑固な性格の患者さんでは、理解できていないにもかかわらず、家族に任せずに自分で薬を管理してしまう方もいますが、薬剤師から「飲み間違えると困るお薬なので、ご家族の方に管理していただいてくださいね」と口添えすることで、納得していただける場合もあります。患者さんと相性のよい薬局のスタッフを把握することが大切です。
- 認知機能障害が認められる患者さんでは、予め、キーパーソン（配偶者・子どもなど、患者さんの身近にいて面倒を見ている方）の連絡先・連絡方法を確認しておくと安心です。
- ただし、キーパーソンにも認知症が疑われるケースでは、医師と対応方法を検討した方がよいでしょう。



Proprietary and Confidential Property of UCB

自分のことを話したがらない患者さんに対する世間話のはじめ方

話をしない患者さんは多くいらっしゃいますが、ちょっとしたきっかけで打ち解けられると、実は「質問したいことがあった」と言われる場合もあります。

世間話のはじめ方の例

- 気候の挨拶を毎回繰り返すことで、だんだん話せる雰囲気になる場合もあります。
  - 「寒くなりましたね。季節の変わり目ですが、体調は大丈夫ですか？」
  - 「花粉症の季節ですね。今年は花粉の飛散量が多いようですが、大丈夫ですか？」
  - 「雨が降りそうですね。天気によって体調が変わりやすいですか？」
- 学生であれば、部活や試験の話が無難です。
  - 「何か部活やってますか？」「テストはいつあるの？」「夏休みはいつから？宿題は出るの？」
- 自分の話をして相手の共感を得るのもよいでしょう。
  - 「高校の授業はさっぱり面白くなかったなあ」「ゲームばかりしてよく怒られたなあ」
- 仕事をしている患者さんには、仕事の話は返答が得られやすいです。
  - 「お勤めどうですか？」「お仕事忙しいですか？」「不規則だったりしますか？」

ワンポイントアドバイス

会話がはじめられれば、てんかんのことを薬剤師が理解しているかどうかで、その後も会話が続くかどうかが決まります。
てんかん発作は、天気や気圧、ストレス、睡眠の質によって影響を受けることがあります。
基礎知識を身に付け、自信をもって対応することが、会話を盛り上げるポイントです。

Proprietary and Confidential Property of UCB

てんかん患者さんの処方鑑査

Proprietary and Confidential Property of UCB

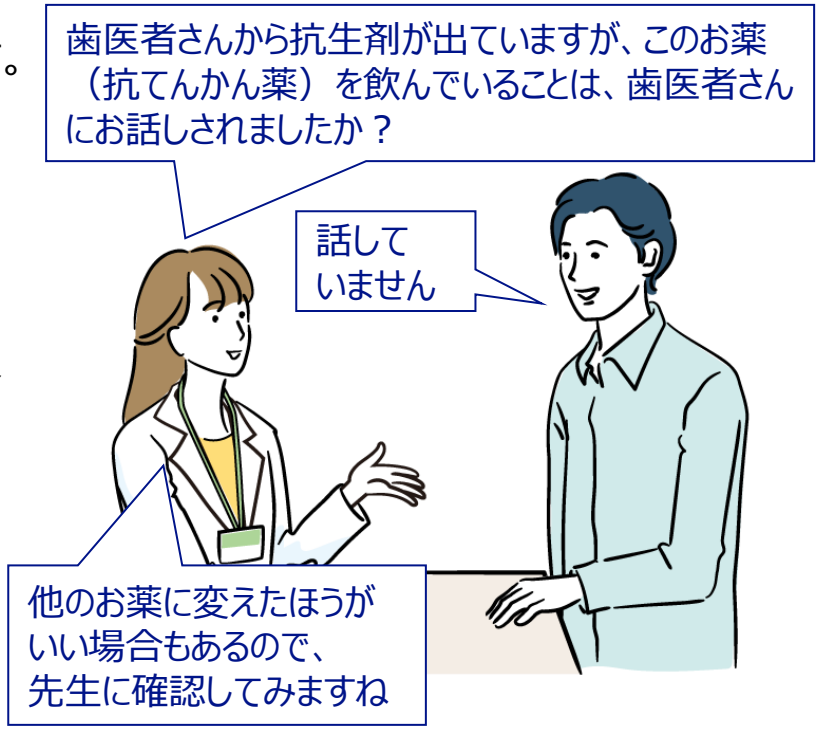
疑義照会が必要なケース／トレーシングレポートの活用

他院からの処方箋に併用禁忌薬がないかどうかの確認は非常に重要です。
疑義照会には該当しないけれど患者さんに関して気になる情報や、患者さんからの質問などで共有した方が良いと思われる内容については、**トレーシングレポート**（服薬情報提供書）を活用しましょう。

トレーシングレポート

報告事項
「発作は全くないけれど、●●●●はいつまで続けるのだろう」と、気にされていました。今回は飲むように説明してお出ししました。

- **併用禁忌**の薬剤が処方されている場合は、疑義照会が必須です。他院から出ている薬も、しっかり確認しましょう。
- **併用注意**の薬については、てんかんの専門医からの抗てんかん薬同士の併用に関しては、医師の判断で処方されている場合が多いようです。
- **他院からの臨時薬**として抗生剤など、てんかん治療以外の目的と考えられる**併用注意**薬が処方された場合は、処方医に疑義照会したほうがよいでしょう。
- 抗てんかん薬が添付文書の**用量を超えて**処方されている場合は、疑義照会が必要です。添付文書の用量よりも少量の場合は、治療上の目的での処方と考えられます。
- 患者さんから「いつまで飲めばよいの？」と聞かれた場合などは、トレーシングレポートで報告するとよいでしょう。



ワンポイントアドバイス
基本的に添付文書の用法用量の範囲内であれば疑義照会は不要です。
すでに併用している薬同士が併用注意だった場合には、副作用が出ていないかどうか、患者さんに確認しましょう。

Proprietary and Confidential Property of UCB

てんかん患者さんがてんかん以外の疾患の処方箋を持参した場合

継続中の抗てんかん薬と併用禁忌や併用注意ではないかを慎重に確認する必要があることは言うまでもありませんが、それ以外にも、注意が必要な場合があります。

風邪薬（鎮咳薬、解熱鎮痛薬、抗生剤など）

- 難治てんかんの患者さんでは、感染症を契機に発作が増悪することがあります。風邪薬の影響か判断が難しい場合もありますので、過去の感染症罹患時の様子を前もって確認しておきましょう。なお、稀ですが感染症を契機に発作が消失する患者さんもいます。

抗ヒスタミン薬、睡眠薬など

- 眠気が強い薬は、発作が悪化する可能性があります。過去に、風邪薬や花粉症の薬などで発作が悪化したことはないか患者さんに確認し、発作増悪の既往があれば疑義照会しましょう。
- てんかん専門医は、日中の眠気の発現頻度が比較的少ない薬剤を選択する場合が多いようです。

Proprietary and Confidential Property of UCB

保険薬局薬剤師に求められる
てんかん患者さんへの対応のポイント

Proprietary and Confidential Property of UCB